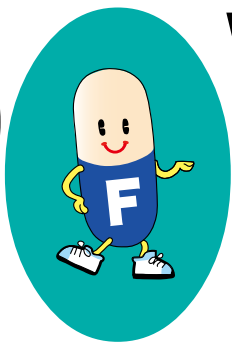


POWER!



2019年 4月 号外

平成31年(2019年) 4月20日発行

発行所 ● 日本薬剤師連盟 〒160-0004 東京都新宿区四谷4-3 四谷トーセイビル2階 TEL (03) 3225-3100 FAX (03) 3225-3200

発行月 ● 隔月発行

<http://www.yakuren.jp>

本田あきこ副会長、全国訪問の旅

第十四弾



全国訪問の旅、2巡目が3月末で終了!

本田あきこ副会長の全国訪問活動は、3月21日〜23日の香川県を最後に、無事ゴールインした。元気に活動できたのは、訪問先の薬剤師連盟と会員の方々のお蔭であり、改めて感謝申し上げたい。

●熊本県 (2月25日〜3月1日)
地元熊本の訪問活動は、熊本市から開

林、都城、日南を回り、最後は宮崎市で

宮崎県 (3月5日〜8日)
日向、延岡、高鍋、西都、えびの、小

大分県 (3月12日〜15日)
大分市、佐伯、臼杵、津久見、日田、

あつた。初めの三日間は、夜研修会が行われ、続けて励ます会が開催され、Something Orangeで盛り上がったこと。都城では元参議院議員で薬剤師の長峯基先生にお会いした。握手した人数は1181人。

●徳島県 (3月18日〜20日)
徳島市、小松島、那賀、阿南、三好、美馬、吉野川、阿波、名西、板野、鳴門と回り、香川県に引き継ぎとなった。18日、19日の夜は、集会に出席し講演を行った。また、訪問活動の途中で輸液メーカーを訪問し、従業員の方々と握手することが出来た。握手した人数は785人。

●香川県 (3月20日〜23日)
徳島県鳴門病院で徳島県から引き継ぎ、東かがわ、小豆島、高松、綾歌、坂出、丸亀、善通寺、仲多度、観音寺、三豊と回った。21日〜23日ともに「三集会」が開催された。香川県の訪問は、祝日と土曜日となったため、4月に再度訪問することになっている。握手した人数は756人。

日本薬業政治連盟から力強い支援!

本田あきこ副会長の大学卒業後初めての職場は卸会社であり、卸勤務は通算4年7か月に及んだ。全国の支部訪問活動においては、ほとんどの県で卸会社の事業所の朝礼時に訪問させていただき、挨拶とパンフレット、ポスター等の配布を行うことができた。事業所によっては、室内ポスターの貼付のみならず、本田副会長の等身大パネルを置いていただいている。



また、日本薬業政治連盟からは、全国の支部長名簿をいただいております。都道府県後援会との連携もスムーズに行われている。これまでの支部訪問活動で訪問した卸の事業所は336カ所、薬局に次いで多くなっている。

3月4日(月)、本田あきこ副会長は山本会長とともに日本薬業政治連盟の鹿目会長を訪問し、政策協定書を取り交わした。写真は、政策協定書に署名するお二人と山本会長を含めたスリーショットである。

なお、本号の「ファーマーくんがゆく」は鹿目会長を訪問するとともに、風力計は、日本薬剤師会理事で卸会社の役員である一條先生に執筆をお願いした。

卸の皆様へ

医薬品卸会社の最終面接時、全くパソコンが出来なかった私は、面接官より「君は仕事をやる気があるのか」と言われました。悔しくて、その足で秋葉原にノートパソコンを買いに行き、必死に練習をし、医薬品情報部に配属となったとき「割とできるようになったね」といわれ、大変うれしかったことを覚えています。社会人としての基礎をはじめ、全てのことを学ばせていただいたのが卸勤務時です。

薬剤師は医薬品なくして業務が出来ません。その医薬品を安定的に供給する卸の役割は大変重要です。熊本地震の災害対策時には、卸の役割の重要性を再確認しました。インフルエンザのパンデミックの時、地下鉄サリン事件の時、必要な医薬品の供給のために尽くされたことを一般の方々には知らないと思います。ただ、医薬品を運んでいるという認識が、薬剤師や薬局勤務者にもあるように思います。大切な医薬品が安定して届けられ、地域の医療を支えていることを、現場経験者として広く伝えるとともに、卸企業の経営安定化につながるよう努力していきたいと思っています。ともに、頑張りましょう。 本田あきこ

薬科大学の学位記授与式に招かれる!

3月9日(土)、第一薬科大学の学位記授与式に招かれ、卒業生の皆様にお祝いの挨拶をする機会を得ることが出来ました。未来の薬剤師が自信を持って社会の為に働くことが出来る環境を作る必要性を改めて認識しました。



風力計



日本薬剤師会 理事 一條 宏

薬機法改正と適正流通(GDP)ガイドライン

昨年開催された厚生科学審議会・医薬品医療機器制度部会では、医薬分業と薬局・薬剤師のあり方について多くの議論がありましたが、医薬品卸売販売業に関する議論も行われ、2018年12月25日には、「薬機法等制度改正に関するとりまとめ」が公表されました。今年は、この公表を受け、医薬品卸売販売業においては、業許可とその体制、管理者(管理薬剤師)に求められる要件等が見直されます。さらに、ガバナンスの強化や医薬品情報提供のあり方、添付文書の電子化等、省令で定められることも含めた薬機法の一部を改正する法律案が国会に提出されています。

また、2018年12月28日には厚生労働省より関係業界に医薬品の完全性を保持しながら流通の適正化を図る手段として、厚生労働行政推進調査事業において取りまとめられた「医薬品の適正流通(GDP)ガイドライン」を周知する事務連絡が発出されました。医薬品においては、流通時にもその品質が劣化しないように厳密な品質管理やトレーサビリティの確保が求められています。このようなことから医薬品流通に関わる薬剤師にとっては、適正管理の当事者、また、責任者としてその役割が大きく期待されており、今までにない歴史的ターニングポイントを迎えると思います。薬剤師に求められている社会的役割は、医薬品の供給その他薬事衛生をつかさどることによって、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もって国民の健康な生活を確保することと定められています。今後もこの精神を大切に、その想いをつなぎ明日へ挑む姿勢が望まれます。

ファーマーくんがゆく

今月は日本薬業政治連盟の鹿目広行会長をお訪ねしました。

ファーマーくん 以下、**ファーマ** こんにちは、ファーマと申します。本日は貴重なお時間を、私のインタビューのために割っていただきありがとうございます。また本連盟の組織内候補であります本田あきこ副会長に対しご支援いただいておりますことに御礼申し上げます。それではまず、鹿目会長の出身地やこれまでの経歴を教えてくださいませんか。

鹿目会長 出身は福島県会津若松市です。昭和47年に上京し、福神株式会社(現アルフレッサ株式会社)に入社しました。入社後は現場の営業職として医療用医薬品の販売にあたりました。当時はまだ医薬分業は進んでいませんでしたので、販売先は病院や診療所が中心でした。その後、営業所長、営業部長、営業本部長を経て平成21年からアルフレッサ株式会社の社長を7年務めました。現在はアルフレッサ株式会社とアルフレッサホールディングス株式会社の会長を兼務しています。また平成26年1月から日本薬業政治連盟の会長を務めさせていただいております。

ファーマ お仕事で大変ご多忙だと思いますが、ご趣味や休日の過ごし方等を教えてくださいませんか。

鹿目会長 若いころからバイクや自動車に



とても興味がありました。社会人になり、あのころのスポーティーな車を購入して乗り回していましたね。今もクルマは見るのも運転するのも好きです。

それと、ゴルフです。年齢を重ねても楽しめるスポーツですね。プレーも面白いですが、プレー中の会話やコミュニケーションも大いに楽しんでいきます。

ファーマ 日本薬業政治連盟の課題等について教えて頂けないでしょうか。

鹿目会長 我々医薬品卸業界は今までは目立たない存在でした。しかしパンデミックや災害を通じ、医薬品流通が社会的に注目され、医療にとって必要なものとの認識が高まってきました。それだけ医薬品流通に関する社会的責任も重く、この説明責任の一端を担うのが日本薬業政治連盟ではないかと思っています。

薬業界は税金や保険制度、患者さんの負担などによって成り立つ、公的意味合いの強い業界でもあります。ひっ迫する医療財政のなかで、医薬品流通の高度化と効率化を両立させながら、安心で安全な流通の仕組みを将来に亘って担保し続けるという責務を強く感じています。

ファーマ 日本薬業政治連盟の会長として、連盟活動を行う上で特に気を遣われておられることがありましたら、聞かせて頂けないでしょうか。

鹿目会長 現在の医療業界の環境は激変の渦中にあり、様々な制度改革が議論されています。我々は決して業界の利益代表ではありません。厳しい財政状況の中で、より良い医療を目指す改革や効率化、国民の健康のために資する改革には賛成です。しかしながら、数字あわせのような対策や混乱を招くような手直しにはしっかりと意見を発信してまいりたいと思っています。一方で、流通の近代化と効率化については自らの課題ととらえ、効率的な医薬品流通の構築に

向けて努力を重ねてまいりたいと思っています。

自らが努力すべきは真摯に対応して汗を流しつつ、政治の力をお借りして社会的に訴えるべきは正しく伝える、そういう機能をしっかりと果たしてまいりたいと思っています。

ファーマ それでは本田あきこ副会長のことで、いくつか聞かせて下さい。会長は、日本薬剤師連盟の組織内統一候補に決定される以前から、本田副会長をご存じだとお伺いしました。どのようなお知り合いなのか聞かせていただけませんか。

鹿目会長 本田あきこ副会長は平成10年に福神株式会社に入社され、卸の管理薬剤師を務めていただいたという縁があります。薬剤師として卸勤務からスタートされましたが、このあと薬局やメーカーでの勤務も経験されたと聞いております。

ファーマ 会長のご指示で本社のみならず、地方の営業所にも、本田副会長の等身大パネルを設置していただいたと聞いております。本田副会長の印象についてお聞かせ下さい。

鹿目会長 とても実直で信頼できる方、そういう印象を持っています。社会は複雑化

しており、問題は山積しています。このような時代を担うには、豊富な経験と誠実な人柄の両面を併せ持つ本田副会長は適材ではないかと思っています。

ファーマ 日本薬業政治連盟では、本田副会長の支援者名簿収集活動を強力に展開していただいております。本田副会長に対する期待についてお聞きしたいのですが。

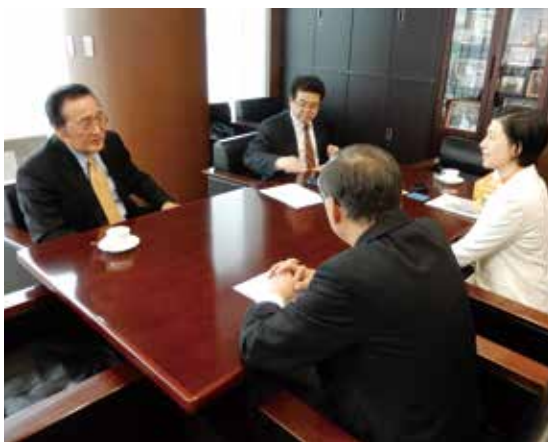
鹿目会長 先ほども述べましたように、我々医薬品卸は、どのような環境下にあっても安心安全で効率的な医薬品流通を担保しなければならぬと思っています。本田あきこ副会長はその経歴が示すとおり、メーカー、卸、薬局と医薬品が患者さんに届くまでの全ての段階でのご経験があり、医薬品流通を熟知されておられます。医療の方向性や実務にも明るい本田あきこ副会長は我々にとって、とても力強い存在であると大いに期待しております。

ファーマ 最後に、会長の人生におけるモットーを教えてくださいませんか。

鹿目会長 私の出身地では、子供のころから「あいづっこ宣言」というものを繰り返している行動規範です。「やっちはならぬ やらねばならぬ ならぬことはならぬものです」

この意識は身に染みついています。厳しい局面になっても、逃げ出したり正面からぶつかるのを避けるような、ずるい人間にはなりたくないですね。どんな時も必死に取り組み、「知恵を絞って、汗を出して働く」ことが私のモットーです。そうすれば人生も豊かになる、そう思っています。

ファーマ 本日は、貴重な時間をさいいただき、ありがとうございます。これからも本田あきこ副会長への多大なるご支援をお願いいたします。



もとゆき Report 藤井もとゆき 国会レポート

薬剤師・薬学博士
自由民主党組織運動本部本部長代理・参議院議員
藤井もとゆき

薬剤師の需給

第104回の薬剤師国家試験は2月の23日、24日に実施され、3月25日、その結果が発表されました。薬学教育6年制課程修了者を対象とした国家試験は、今回で8回目となります。今年1万4,376人が受験し、1万194人が合格しました。平成28年の第101回の1万1,488人に次ぐ合格者数となり、合格率は70.91% (新卒者のみでは85.50%)となっています。

厚生労働省によれば、全国の薬剤師数は平成28年末の調査で初めて30万人を超え、そのうちの約75%が薬局及び医療施設に従事し、その人数は毎年確実に増加しています。しかしながら、その需給状況は地域によって大きく異なり、大都市部での薬剤師確保は他地域に比べて良好なものの、地方都市などでは、薬剤師の確保に苦慮しているとの声が、薬局経営者や医療機関関係者から多く聞かれるところとなっています。

薬科大学・大学薬学部は2003年頃から新設の動きが加速し、国公立大学の18校と併せ、それまでの46校から74校となりました。薬学部の定員数は約1万3,000人を数え、入学者数が定員に満たない学校も現れる状況となっています。一方で薬剤師不足に悩む地方都市では薬学部新設の要望も強く、昨年4月に山陽小野田市立山口東京理科大学が山口県に開校されたのに続き、来年4月には、岐阜県の岐阜医療科学大学に薬学部が開校されます。毎年1万人近くの薬剤師が新たに送り出される現状を考えると、薬剤師の将来の過剰が危惧されるのも当然のことと思います。

厚生労働省は平成30年度から、薬剤師の将来需給予測を行う研究事業を進めています。薬剤師の需給の見通しをしっかりと立て、正確な需給予測に基づく薬学教育定員枠の早急な設定と薬学教育の一層の充実を図ることにより、優れた薬剤師を世の中に送り出していくことが、「患者のための薬局ビジョン」の一早い実現につながるものと思います。

編集後記

女性の力

昨年5月、「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」が施行され、この数年に施行されて初の統一地方選挙が行われました。各政党は候補者を男女均等になるように努力を求め女性の立候補者を募りました。しかし結果はどうでしょう？皆さんの地域で女性がどれだけ立候補し、当選したか再度確認してみたいかがでしょうか。

日本薬剤師連盟は女性を選びました。私たちの職能と言つべき資格(薬剤師)・職場(薬局・病院)では女性の進出が最も多く、女性パワーがないと成り立たないとさえ思えます。しかし、地域薬剤師会や都道府県薬剤師会、日薬代議員、日薬役員と行動範囲が広がるにつれて女性役員は政治分野と同じように減少していきます。そんな状況の中で、本田あきこ副会長は、薬剤師への「あい」と「きぼう」を持って「これからの医療と薬剤師」を活かす国創りを目指して挑戦しています。

本田あきこ副会長全国訪問の旅も佳境を迎え、訪問活動が進むにつれ全国の薬剤師に「新たな時代を切り拓く」組織内統一候補の「女性の本気」を感じて頂けるようになりました。これからは来る決戦に向け、新たな行動に移って行くこととなります。そのとき、それぞれの地域で女性もつ情報伝播力の発揮が必要です。また、地域薬剤師会には意欲と能力のある女性薬剤師は必ずいます。本田あきこ副会長に続く女性の進出をこれからも望みたいと思います。

(H.O.)

広報委員

安東 哲也、石井 甲一
小野 春夫、鳥海 良寛
大澤 泰輔、大原 整
近藤直緒美、渡邊美知子